

18 MAR 2004

WIPO PCT

PCT/JP 2004/001055

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

03. 2. 2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年 2月 5日

出願番号
Application Number: 特願2003-028426
[ST. 10/C]: [JP 2003-028426]

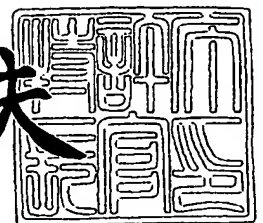
出願人
Applicant(s): 有限会社柴田工務店

**PRIORITY
DOCUMENT**
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 3月 4日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2004-3016569

【書類名】 特許願

【整理番号】 PM002572

【提出日】 平成15年 2月 5日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 E04F 15/00

【発明者】

 【住所又は居所】 山口県岩国市今津町 4 丁目 3 - 2 1

 【氏名】 柴田 光雄

【特許出願人】

 【住所又は居所】 山口県岩国市平田 4 丁目 1 1 番 3 3 号

 【氏名又は名称】 有限会社柴田工務店

【代理人】

 【識別番号】 100074055

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 三原 靖雄

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 043719

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要



【書類名】 明細書

【発明の名称】 仮設用スライド平面床材

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 スラブ施工時に敷設・使用する仮設床材であって、所定の長さ
と所定の幅を有する上・下二枚の床板本体を重合して設け、これら床板本体には
、適宜な幅間隔に、下方に突出するスライドホルダー部をそれぞれ設け、上の床
板本体のスライドホルダー部を、下の床板本体のスライドホルダー部と、摺動す
るよう形成して設け、両床板本体をスライド可能としたことを特徴とする仮設用
スライド平面床材。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、仮設用スライド平面床材に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、建築現場で施工されるスラブを構成する床材には、デッキプレートと呼
ばれる断面が、台形状の枠を連続して形成したプレートを使用していた。

しかし、このデッキプレートは、プレート面が凹凸のため、コンクリートの使
用量が多く、また、この凹凸部が梁高さ内より出るため階高が高くなるという欠
点があり、このデッキプレートに代わり、ハイデッキと呼ばれる、スラブ施工時
のと仮設材として使用されている。

【0003】

この仮設材は、従来の床材と比べて軽量のため、作業が安全、かつ能率的であ
り、さらに従来のデッキプレートと異なり、平滑で溝部がないため、コンクリー
トの使用量が軽減できる等の利点も存するが、次のような欠点があった。

【0004】

(1) 断面欠損がある。

従来の仮設材は、S造やRC造やSRC造の施工では、図6に示すように、梁



を形成する型枠より内側に、該仮設材の端部を突出して設けた場合には、該仮設材の端部が梁材のコンクリート部に食い込むことにより、梁材に断面欠損が生じる。

(2) 結露が生ずる。

また、S造の場合には、梁を構成する鉄骨に、仮設材の端部を受金物を介して固定しており、完成後もそのまま残すものである。そのため、該仮設材は金属製のため、結露が付着する。そして、この結露を防止する、石綿等を塗布する工事が必要となり、工事が煩雑化するものである。

(3) 再転用できない。

しかも、仮設材は、S造、RC造、そしてSRC造に使用する場合、仮設材は、所謂、ハメコロシとなるため、再転用ができない。

(4) 開口部には利用できない。

さらに、仮設材がハメコロシの場合、スラブに開口部を形成する場合には、下部の仮設材を切断機等で穴を開けなければならず、工事が煩雑化する。

(5) 長さが調節不可能。

また、仮設材は、幅方向には630mmと400mmの二種類を組み合わせ、ある程度、調節できるが、長さ方向は、メーカーの定めた寸法で加工されて来るため、現場での図面変更に対応することができず、残余の部分を切り取る作業が必要であったり、その作業が煩雑となり、工期も長くなる等の欠点があった。

(6) 資源再利用が不可能

そして、これらの仮設材の再利用はされていない。
等の欠点があった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

そこでこの発明は、上記の欠点を除去し、断面欠損がなく、結露も生ぜず、再転用が可能であり、床面に開口部を必要とするものにも利用でき、長さが調節が可能で有り、再利用も可能な仮設用スライド平面床材を開発・提供することにある。

【0006】



【課題を解決する為の手段】

そのため、この発明は、スラブ施工時に敷設・使用する仮設床材において、所定の長さとし、所定の幅を有し、適宜な幅間隔毎に、ホルダーを有する床板を設け、該床板に重合し、かつ、これら各ホルダーを重合するに適合するホルダーを形成して、スライド可能にしたことを特徴とする仮設用スライド平面床材である。

【0007】

【発明の実施の形態】

次に、この発明の一実施例を図面に従って詳述すると、スラブ施工時に敷設・使用する仮設床材であって、所定の長さとし、所定の幅を有する上・下二枚の床板本体(1)(2)を重合して設け、これら床板本体(1)(2)には、適宜な幅間隔に、下方に突出するスライドホルダー部(3)(3')をそれぞれ設け、上の床板本体(1)のスライドホルダー部(3)を、下の床板本体(2)のスライドホルダー部(3')と、摺動するよう形成して設け、両床板本体(1)(2)をスライド可能としたことを特徴とする仮設用スライド平面床材から構成される。

【0008】

尚、スライドホルダー部(3)(3')の形状は、図6(a)に示すように、床板本体(1)(2)の表面よりやや下がった箇所に設けた中空型の三角形でもよく、また、図6(b)に示すように、床板本体(1)(2)の表面から直ぐに下方に設けた中空型の二等辺三角形でもよく、あるいは、図6(c)に示すように、床板本体(1)(2)の表面より直接下がって設けた、閉塞した逆T字型のものであってもよく、さらに、図6(d)に示すように、L字型であってよい。

【0009】

さらに、床板本体(1)(2)の厚みは、0.8~1.6mm程度であり、また、施工にあたっては、両床板本体をスライドした場合の重合部(A)の下に、バタ角と呼ばれる角材(X)を介して、サポーター(Y)で、一時、固定支持するものである。

【0010】

【発明の効果】



この発明によると、以下の効果を奏する。

(1) 断面欠損がない。

この発明の仮設平面床材によると、床板本体(1)(2)が、スライドホルダー部(3)(3')を介して、スライドすることにより、長さが微調整できるため、RC造やSRC造の施工では、梁を形成する型枠に床板本体の端部を固定でき、仮設平面床材の先端部が型枠材の内側には突出せず、従って、梁材に断面欠損は生じない。

(2) 結露が生じない。

また、S造の場合には、梁を構成する鉄骨に、仮設材の端部を受金物を介して固定しており、完成後もそのまま残すものでありスラブ完成後、結露は生じない。

(3) 再転用が可能である。

しかも、この仮設平面床材は、S造、RC造、SRC造に使用する場合に利用でき、経済的である。

(4) 開口部にも利用ができる。

さらに、仮設平面床材は、スラブ形成後、取り外すものであり、従来のように、下部の仮設材を切断機等で穴を開ける必要がなく、工事効率化する。

(5) 長さが調節できる。

また、従来の仮設材は、幅方向には630mmと400mmの二種類を組み合わせることによって、ある程度、調節でき、さらに、長さ方向も、スライドホルダー(3)(3')を介して、50mm程度伸縮可能にスライドするため、長さの微調節が可能であり、施工が簡単である。

(6) 資源再利用が可能である。

そして、これらの仮設平面床材は、金属製であり、再利用が可能である。
等極めて有益なる効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 この発明の一実施例を示す正面図である。

【図2】 この発明の一実施例を示す側面図である。

【図3】 この発明の一実施例を示す平面図である。

【図 4】 この発明の一実施例を示す一部拡大側面図である。

【図 5】 この発明の使用状態を示す説明図である。

【図 6】 この発明の一実施例を示し、(a) (b) (c) (d) は、それぞれスライドホルダーの各実施例を示す一部欠截側面図である。

【図 7】 従来例を示す説明図である。

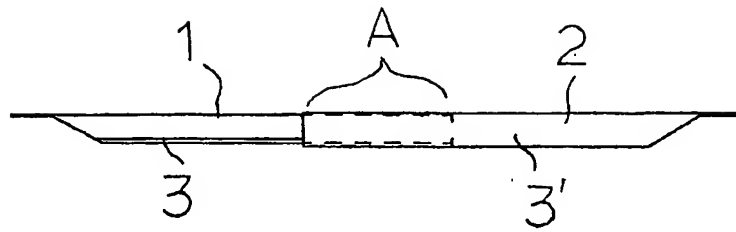
【符号の説明】

- 1 床板本体
- 2 床板本体
- 3 スライドホルダー部
- 3' スライドホルダー部
- A 両床板本体をスライドした場合の重合部
- X 角材
- Y サポーター

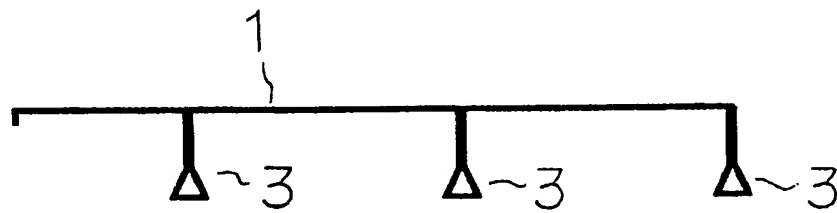
【書類名】

図面

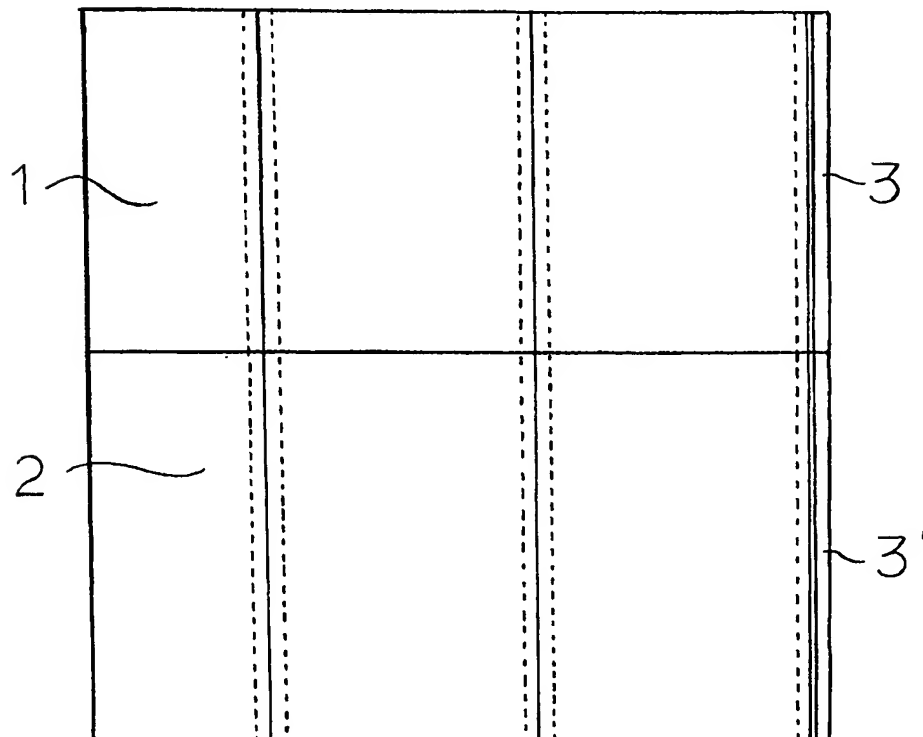
【図 1】



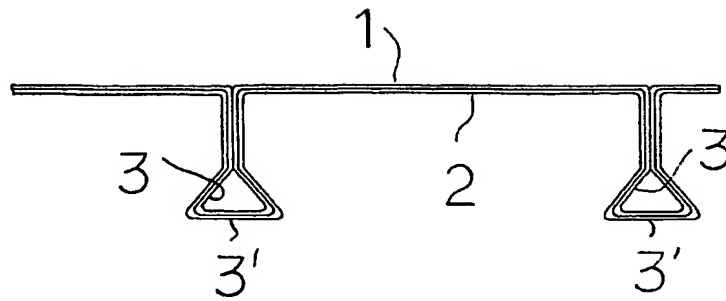
【図 2】



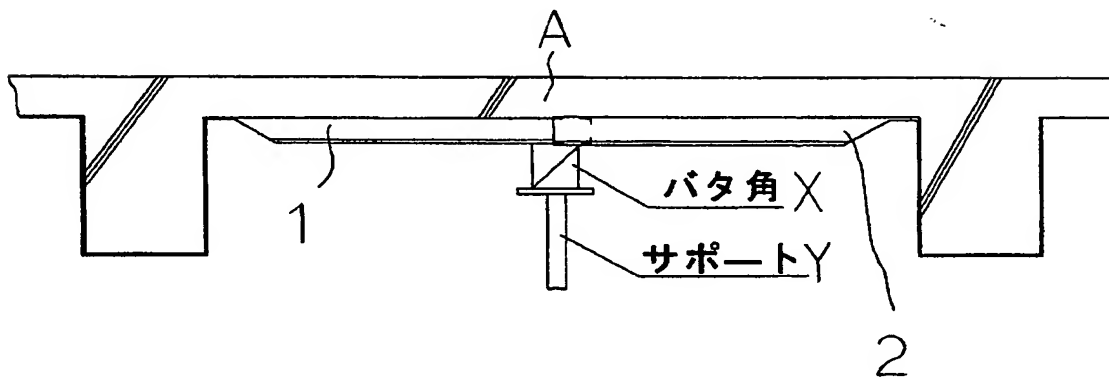
【図 3】



【図 4】

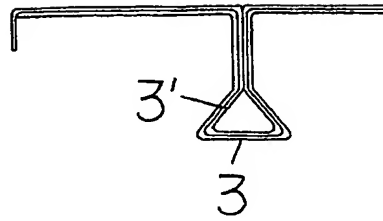


【図 5】

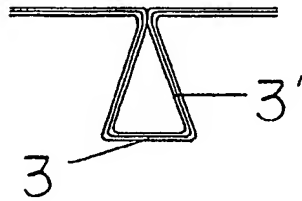


【図 6】

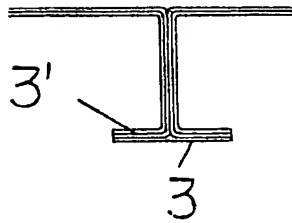
(a)



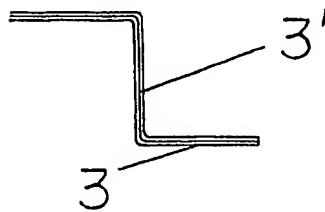
(b)



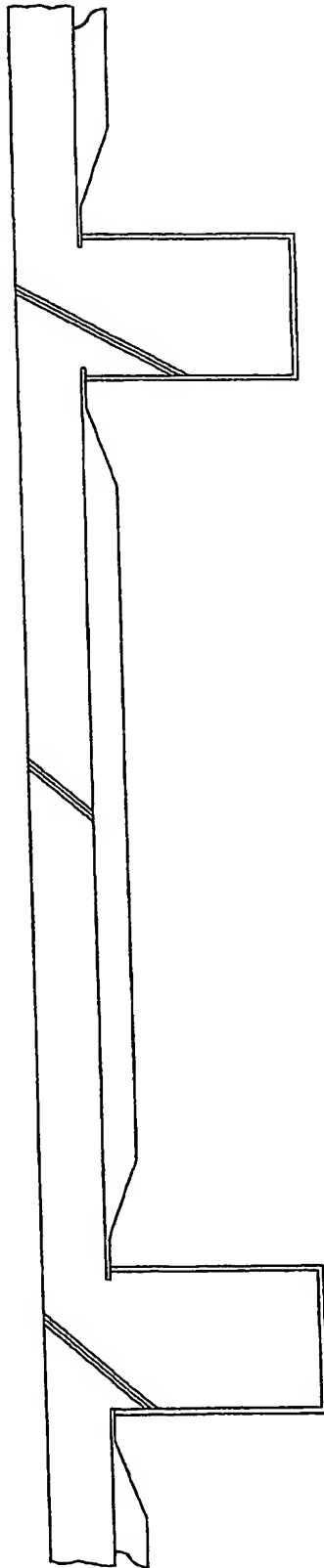
(c)



(d)



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 そこでこの発明は、上記の欠点を除去し、断面欠損がなく、結露も生ぜず、再転用が可能であり、床面に開口部を必要とするものにも利用でき、長さが調節が可能で有り、再利用も可能な仮設用スライド平面床材を開発・提供することにある。

【解決手段】 スラブ施工時に敷設・使用する仮設床材であって、所定の長さとし、所定の幅を有する上・下二枚の床板本体 1，2 を重合して設け、これら床板本体には、適宜な幅間隔に、下方に突出するスライドホルダー部 3，3' をそれぞれ設け、上の床板本体 1 のスライドホルダー部 3 を、下の床板本体 2 のスライドホルダー部 3' と、摺動するよう形成して設け、両床板本体をスライド可能としたことを特徴とする仮設用スライド平面床材。

【選択図】 図 5

特願 2003-028426

出願人履歴情報

識別番号

[503049520]

1. 変更年月日

2003年 2月 5日

[変更理由]

新規登録

住 所

山口県岩国市平田4丁目11番33号

氏 名

有限会社柴田工務店